

雲南省昭通市魯甸県大地震への義捐金へのご協力、有難うございました

今年8月3日、四川省でも僻地といえる涼山彝族自治州に接した雲南省昭通市魯甸^{ルーディエン}でマグニチュード6.5の地震が発生し、現地は、昔ながらの日干し煉瓦の民家が多く、これらの住宅は壊滅的な被害になりました。被害もさることながら地震によって明るみになったことは、新華社通信社の記者の報告にも「地震は、ここの平穏な生活を打ち壊したばかりでなく、我々の眼をこの地の貧困と環境の劣悪さにも向けさせる」('わんりい' 9月号)との現地の状況もあります。

皆様にご協力いただいた義捐金を託す、認定NPO法人・日本雲南聯誼協会理事長の初鹿野恵蘭氏の雲南の子ども達への教育支援の動機も、1996年の雲南省麗江大地震被害地区で倒壊した建物に囲まれて暮らす貧困地域の子どもの姿を見て、安全な教育の場を提供したいという思いからとのこと。以来、

協会は雲南省少数民族への教育支援を続け実績を積み重ねています。初鹿野氏よりの、ご自身の実体験に基づいた、地震被害地域の子どもの教育復興支援の真摯な呼び掛けに応え、'わんりい'も'わんりい'メンバーと関係者各位の温かな気持ちを被災地復興支援として届けたいと募金活動の協力を皆様にお願いました。

11月の'わんりい'定例会で、定例会参加者の立会



日本雲南聯誼協会初鹿野理事長に義捐金を手渡す

いにより募金箱を開き、これまでのすべての義捐金を集計しました。皆様の温かな善意の気持は、郵便振替によるもの：71,000円、「夢広場」の収益金、「月餅の会」及び「バルト三国・講演会」講師料など'わんりい'活動関連：16,300円、カンパ箱へのご寄付：42,116円など総額で129,416円になりました。深く感謝申し上げます。

義捐金は11月20日、田井、有為楠、寺西の3名が認定NPO法人・日本雲南聯誼協会本部をお訪ねし、直接、理事長の初鹿野恵蘭氏に皆様の温かい志としてお届けしました。初鹿野氏より「お預かりいたしましたご寄付と皆さまの温かいお気持ちを、弊協会が責任を持って、必ず被災地の子どもたちの為に役立たせます」との言葉を頂きました。

初鹿野氏は、今年10月、被災状況をご自分の目で確かめたいと被災地訪問を試み、被災地すぐ近くまで行きながら、道路復旧が終わっておらず被災地入りはできなかったそうです。が、今回の災害に関心をお寄せ下さった皆様に、その折に接した避難キャンプの人々の様子などを、寄付呼び掛けの責任者として報告したいとの申し入れを頂きました。幸い、2015年1月12日(祝)の町田市民フォーラム視聴覚室に空きがありましたので、「雲南省昭通市魯甸県大地震・報告会」開催を予定しました。'わんりい'12月号の掲示板、同封チラシで詳細をご覧ください、ご参加ご予約下さいますようお願いいたします。 (報告：田井光枝)



第17回町田発国際ボランティア祭・2014夢広場の'わんりい'のブースにも置かれた募金箱